

静岡県東部地域の活性化を考える

飛躍

平成17年度のあゆみ

飛躍

飛躍

C O N T E N T S

● ごあいさつ	3
● 平成17年度のおゆみ	4

● 特集Ⅰ ファルマバレープロジェクト	
この1年の成果	6
東部各地の動き	8

● 特集Ⅱ 観光振興	
伊豆のブランド化戦略	10

● 特集Ⅲ 広域行政の推進	
静岡県市町村合併推進構想	12
東部の合併状況	14

● サンフロントから情報発信	
ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17

● 平成18年度活動方針	18
--------------	----

● サンフロント21懇話会名簿	20
-----------------	----

● 運営委員長挨拶	27
-----------	----

● ぐあいさつ



サンフロント21懇話会
代表幹事
スルガ銀行社長

岡野 光喜

県東部地域の活性化を目指して発足したサンフロント21懇話会は今年、活動12年目に入りました。発足からの約10年は、日本経済の沈滞期にも当たり、元気の出なかった業種もありました。その中で懇話会は各種提言を行い、地域にとってなくてはならない組織に成長しました。昨年からは本格的な景気回復の波が訪れ、業種などによるバラツキはありますが、元気の出してきた方々も増えてきました。今年はこの足取りを一層確かなものになければなりません。

昨年の懇話会は平成19年に沼津市の門池地区で開かれる技能五輪世界大会に向けてさまざまな活動を展開しました。5月末には約20人の会員が技能五輪ヘルシンキ大会を視察してきました。併せてスウェーデンとデンマークのサイエンスパークも見て、東部分科会で議論しました。また技能五輪の跡地活用などについては沼津市と静岡県に提言書を提出しました。伊豆地区の分科会では初めてコンピューター空港をテーマに取り上げ、大変多くの参加者がありました。新たな課題として研究していかなければなりません。富士地区分科会では合併40周年を控えた富士市とその周辺の町づくりを議論しました。

本年度の活動も概ねこれまでの路線を引き継いだものとなりますが、県が推進する「ファルマバレー構想」はがんセンター研究所の開設など実施段階に入っていることから「ファルマバレープロジェクト」へと一歩前進し、懇話会としてもさらに支援に力を入れます。技能五輪はいよいよ具体的な活動が始まります。伊豆の観光振興ではインフラ整備や新しい目玉づくりも課題です。従来以上に会員の皆さまのご協力をお願い致します。



静岡新聞社・
静岡放送
社長

松井 純

平成18年度予算を審議する通常国会は、若手議員のメール問題で民主党が一人で転んでしまい、あらためて小泉首相の強運ぶりを見せ付けられた気がします。国民にとっては焦点とされた「ライブドア」事件、耐震データ偽造問題、官製談合事件、米国産牛肉輸入問題の4点セットに真剣な論議を期待したのですが消化不良の感が残りました。これからは9月の自民党総裁任期切れに伴う小泉首相の退陣と、後継首相争いに焦点は移るのでしょうか、せっかく回復しつつある景気に悪い影響を与えないよう祈るような気持ちです。

県内では市町村合併が進み、本年度当初時点で42市町となりました。「平成の大合併」がスタートした当初は74市町村でしたから43%減になります。行政単位としての村は消えました。また昨年の静岡市に続き、来年4月には浜松市も、行政権限において「県並み」と言われる政令市に移行します。道州制論議などもかまびすしくなる中、今後はいよいよ独立独歩、県や国の支援が減ってもやっていける都市作りが期待されます。

サンフロント21懇話会は昨年、技能五輪ヘルシンキ大会と北欧のデンマーク、スウェーデンにあるリサーチパークに有志の視察団を派遣し、新たな提言書を県と沼津市に提出しました。沼津大会が来年に迫り、一層の支援が必要です。また県のファルマバレー構想も着々と具体化しつつあります。景気回復を背景に全国きっての観光地である伊豆地域に再びにぎわいを取り戻すことも目標の一つです。一致結束して本年度も懇話会事業へのご支援をお願い致します。

● 平成17年度のあゆみ

弁護士

國廣 正

「企業の危機管理と
コンプライアンス経営」



全国地域航空システム推進協議会
事務局長

井上 高一

「伊豆周遊観光の課題
～通勤ター空港の可能性を探る～」



◆17年4月

広域合併推進冊子を発行

沼津、三島、函南、清水、長泉の2市3町の合併の必要性を訴える冊子「私たちの地域の未来をもう一度考えてみませんか？」(A4判、11頁)を発行した。2市3町の住民生活の一体性、財政力、経済指標などで現状を示すとともに、合併による経費削減効果を試算し、合併の優位性を強調した。発行は1,200部。県東部全域の首長、議員、行政担当部署に送付した。

◆17年5月

活動記録「飛躍」発行

平成16年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍」(A4判、31頁)を発行した。懇話会発足10年間の軌跡、特集として国際観光の推進、ファルマバレー構想と各地の動き、広域行政を取り上げ、平成17年度の活動方針を紹介した。1,000部発行。

◆17年5月17日

17年度総会(沼津東急ホテル)

代表幹事岡野光喜ルガ銀行社長が「さまざまな活動で成果を出してきた懇話会に対する期待は年々増している。東部の躍進に向け、会員一丸となった取り組みを」と訴え、来賓の石川嘉延知事は「ものづくり県の静岡で技能五輪国際大会を開催できることは、製造現場に若者を引き込む大きな力になる」と懇話会が支援している第39回技能五輪沼津国際大会の効果に期待を寄せた。記念講演では、弁護士國廣正氏が「企業の危機管理とコンプライアンス経営」と題して話し、相次ぐ企業の不祥事は社会のルールに対応できない企業が引き起こすと指摘し、ルールを守る企業風土の構築を呼びかけた。会員数300人。

◆17年5月25—30日

北欧へ技能五輪視察団派遣

沼津で開催予定の第39回技能五輪国際大会の参考にするため、フィンランド・ヘルシンキで開催の第38回技能五輪国際大会を見学し、併せて沼津大会後の跡地問題を考えるため、デンマークとスウェーデンのサイエンスパークを視察した。参加者はメンバーら19人。

衆議院議員
(経済産業政務官)

片山 さつき

「国政を語る」



国土交通省中部地方整備局
道路部長

酒井 利夫

「道路行政の課題～
伊豆地区の道路整備に向けて」



静岡文化芸術大学長

木村 尚三郎

「新たな都市へ向けて～
新市合併40年を前に」



共同通信論説副委員長
(前政治部長)

後藤 謙次

「揺れる民主党と自民党総裁選」



◆17年7月8日

第11回東部地区分科会（ホテル沼津キャッスル）

「技能五輪国際大会とファルマバレー構想～ヘルシンキ大会の視察を終えて～」をテーマに開催した。懇話会が派遣したフィンランド・ヘルシンキ大会視察団の成果をもとに沼津大会開催時の課題、跡地利用について議論した。同行取材で撮影したビデオ映像で大会の雰囲気を伝え、井口賢明運営委員長が視察報告を行った。パネル討論は、矢作恒雄慶応大学経営大学院教授がコーディネーター、視察団員がパネリストを務めた。

◆17年8月26日・9月7日

技能五輪沼津国際大会の跡地利用で提言

技能五輪沼津国際大会で整備した土地、建物などの跡地利用について斎藤衛沼津市長にファルマバレープロジェクトと連携した「ぬまづウエルネス・リサーチパーク」を提言し、併せて石川嘉延知事にも提言書を手渡した。起業・成長をはじめ、経営基盤の確立、株式公開までの総合支援を行うとともに、医療、福祉、薬事の企業群を構成するとした内容で、健康関連の産業集積とベンチャーの創設を狙った。

◆17年10月14日

第11回伊豆地区分科会（伊豆・大仁ホテル）

テーマは静岡空港開港をにらんだ「伊豆周遊観光の課題～コミューター空港の可能性を探る～」。基調講演、パネル討論を通じて伊豆の観光振興のために小型航空機の離発着は起爆剤となりうるかを意見交換した。「コミューター空港は伊豆を変える」「コミューター空港の実現の鍵は地元の熱意を結集できるかにかかっている」と熱っぽく議論が進み、出席者一同がコミューター空港の必要性を認識した。

◆17年11月15日

運営委員会全体会（ブケ東海沼津）

沼津で開催予定の第39回技能五輪国際大会の支援強化、ファルマバレープロジェクトの推進支援など4項目の18年度活動方針案を提示し、議論した。その結果、一部内容、字句の修正を行い、来年1月の運営委員会に諮ることで合意した。

◆17年11月15日

第11回全体会（ブケ東海沼津）

初当選して間もない片山さつき衆議院議員（経済産業政務官）が「国政を語る」と題して講演した。国際競争力の維持が重要との認識を示し、日本はアジアとの関係なしに経済は成り立たないとし、知的財産の保護が最重要課題となってくると語った。さらに、育ち始めた地域の産業クラスター計画を、経産省が強化していくことを約束した。

◆17年11月28日

特別講演会（三島信用金庫会議室）

「道路行政の課題—伊豆地区の道路整備に向けて」をテーマに酒井利夫国交省中部地方整備局道路部長が講演した。伊豆の道路網は貧弱とし、経済や防災に加え、医療福祉の面から信頼性の高い幹線道路の必要性を説いた。

◆18年1月23日

運営委員会全体会（スルガ銀行知求塾）

平成19年11月に開催の第39回技能五輪沼津国際大会の支援強化、ファルマバレープロジェクトの推進支援、伊豆地域の観光振興、合併を含めた広域行政の推進支援の18年度活動方針を確認した。2月の富士地区分科会の概要説明も行われた。

◆18年2月8日

第11回富士地区分科会

（フジロイアルプラザホテル）

旧富士市と旧吉原市、旧鷹岡町が合併して現富士市が誕生してから40年を迎えるため、富士市の将来像を議論するシンポジウムを開催した。テーマは「新たな都市へ向けて～新市合併40年を前に」。木村尚三郎静岡文化芸術大学長が基調講演し、市が導入を進めている新交通システム・DMV（デュアル・モード・ビークル）の可能性について議論した。

◆18年3月30日

幹事・運営委員と県東部選出県議団・市長町長連絡会議との合同会議（東部総局サンフロント）

18年度活動方針案を報告し、市長町長連絡会議の役員を再選した。後藤謙次共同通信論説副委員長（前政治部長）が「揺れる民主党と自民党総裁選」と題して記念講演した。

先端医療・健康産業を集積し、県民の健康寿命を延ばすファルマバレー構想。18年度からはファルマバレープロジェクトと名称を変え、さまざまな分野で健康関連産業の振興を目指します。プロジェクト成功のカギを握るのが、産学官が協働して行う医看工連携。その拠点とも言うべき県立静岡がんセンター研究所が昨年11月に開設されました。

戦略1 — 研究開発と医療の質の向上

● 静岡がんセンター研究所が開設

研究所では、患者・家族を徹底的に支援する仕組みづくりや効率的な看護技術の開発に力を入れると共に、免疫療法などの新しい診断技術開発にも積極的に取り組みます。そのために研究所では3つの方針を重視。第1は「患者の視点を重視した研究」を実践すること。第2は「プロジェクト志向型の研究」。第3は「イコールパートナーシップ」。このため、大学や企業の研究者には積極的に医療現場について学んでもらう体制を整えるほか、研究者同士が交流するための「しおさいホール」や「交流サロンいずみ」を併設しています。

医看工連携の拠点となる研究所は、ファルマバレープロジェクトのけん引役としての役割も期待されており、すでに免疫治療や遺伝子診療研究部門で県東部の企業が研究に参画しています。



■静岡がんセンター研究所

● 創薬探索研究事業

静岡発の画期的新薬を開発するため、創薬研究のコーディネートや化合物ライブラリー構築用の化合物の収集などを行っています。今年度はライブラリー化合物収集数約3万サンプル（共同研究契約12件）、大学、企業との共同研究契約3件、創薬セミナー1回開催など積極的な推進を図りました。

また、事業の研究成果をより効率的に新しい医薬品開発につなげ、新たな医療品関連バイオベンチャーの創出を目指すインキュベーションの仕組みづくりを行っています。

● 電子カルテシステム

静岡県が進める電子カルテシステムの本格稼働が始まりました。同システムは患者の医療情報をデータ化し共有化することで、病診連携、病病連携を促進し医療の質の向上と地域間格差を是正するのが目的。今まで各医療機関や開発メーカーによって異なっていた医療情報のコードや通信規約などを国際基準で標準化したことに加え、画像情報提供、診療記録管理、看護情報支援など、病院が必要とする機能ごとに導入できるのが特徴です。

患者は過去の診療データをCDで提供してもらうことができ、転居で病院を変える場合やセカンドオピニオンを受けたい時に、以前の病院への問い合わせや再検査の負担が軽減されます。今後は国庫委託事業として、全国版に改修し県内のみならず全国の医療機関の配布を予定しています。



■情報提供CD（見本）

戦略2 — 新産業の創出と地域企業の活性化

● 産業支援ネットワーク会議

プロジェクトでは患者・家族と医療技術者との交流から生まれるニーズとシーズをマッチさせ、研究成果を製品化するベッドサイドクラスターの形成を進めています。こうした機会作りとして「テクノサロン」「しずおか夢起業プラザ」「静岡新産業技術フェア」などのセミナーや交流会を開催しています。

個々の地域や団体の情報を一元化する産業支援ネットワーク会議も活動を開始しました。ファルマバレーセンターや商工会議所、中小企業団体中央会、工業技術センターなどが独自で行ってきた事業やセミナーの重複をなくし、ネットワーク相互の効率的な情報発信や集約を進めていきます。

産業支援NW会議 <http://www.numazu-plaza.net/localevent/>

戦略3 — ウェルネスの視点でのまちづくり

● かかりつけ湯モデル協議会が発足

健康増進と癒しのための伊豆の温泉宿ネットワーク「かかりつけ湯」が活動を開始しました。主に首都圏の団塊世代に向け、「良質な温泉」と「おもてなしの心」を基本に、平日、連泊が可能な料金を設定しています。

1次募集には伊豆各地から約80軒が応募、「温泉を活用したプログラム」「健康に配慮した食事」「さまざまな癒しの提供」「リーズナブルな価格設定」のうち、1つ以上の特徴を持つ39施設を選んでのスタートとなりました。ことしの春には2次募集も行い、新たな「伊豆ブランド」として育てていく予定です。



■かかりつけ湯マーク

● 井上靖文学碑が完成

昨年東部県行政センター（現東部支援局）がまとめた「井上靖文学散歩道」。東部を舞台に井上靖の代表作「しろばんば」「夏草冬濤」に登場するスポットを詳しく解説したガイドブックです。この事業をきっかけに、御成橋のたもと、静岡新聞社・静岡放送東部総局の敷地に「井上靖文学碑」が建てられました。井上と沼津の関係や橋からの眺めをつづった「夏草冬濤」の一節が刻まれ、伊豆を訪れる文学ファンに新しい魅力を提供しています。



■井上靖文学碑

● KKトレーニングシステム第2段階へ

東京大学大学院の小林寛道客員教授考案によるKKウェルネストレーニングシステム。体幹深部筋を効率的に鍛えることで、トップアスリートはもちろん子供やお年寄りの体力向上を図ろうというものです。県総合健康センターを中心に各種の体力づくりが行われています。

小林教授は運動と脳の関係に着目、脳から一方的に筋肉に指令を流すだけでなく、末端からの刺激が脳の働きを活発にすることを脳波を測定することで解明しています。今年度は知的障害者の運動バランス向上にマシントレーニングを取り入れ、体力アップだけでなく、夜ぐっすり眠れたり、落ち着きが出てくるといった効果も出てきました。マシンの改良とともに多くの展開を見せるKKトレーニングシステムからますます目が離せません。

■ 地域の動き

● 技能五輪国際大会が沼津市で開催

「ものづくり県」と呼ばれるほど製造業のレベルが高い静岡県。東部にも高い技術を持った企業が集積しています。ファルマバレープロジェクトで生まれた成果をいかに地元企業の技術で実用化していくかプロジェクトの進展に技能の進化は欠かせません。

技能五輪国際大会は2年に1度、世界各国・地域の予選を勝ち抜いた一流の青年技能者（22歳以下）が一堂に会し、国際大会の場で技術を競います。また、大会を通じて参加国の職業訓練の振興及び事業水準の向上を図ると共に、国際交流と親善を目的としています。平成19年11月に開催される第39回大会は沼津市が舞台。障害者が職業技能や生活余暇技能を競う「国際アビリンピック」（静岡市）との大会史上初の同時開催となります。

■ キャッチフレーズ

「個性輝く技能の祭典～

見せよう、伝えよう、技能で輝く個と社会」

■ 競技種目 ポリメカニクス、メカトロニクス、情報技術、溶接、タイル張り、ウェブデザイン、フラワー装飾、美容/理容、洋裁、洋菓子製造など40種以内。

■ 参加国 約40カ国・地域

■ 選手・役員 約2,500人

■ 来場者 約20万人以上



■大会会場イメージ図（パンフレットより）

● 伊東市がKKトレーニングシステムを導入



■KK理論を応用して開発されたKKマシン（県総合健康センター）

健康保養地の先駆けとして平成10年、国のモデル都市指定を受けた伊東市は、温泉をはじめ、海、山、湖などの自然、歴史、文化を合わせ持った伊豆屈指の観光地です。18年度からは豊富な湯量を誇る温泉を健康増進に積極的に生かす取り組みが、官民一体で行われます。目玉となるのが東大・小林教授のKKウエルネストレーニングシステム。以前から温泉と運動の関連について研究をしたかったという小林教授は「家族や社会のために働いてきた団塊の世代にこそ、リタイア後の時間を自分のために使ってほしい。それには健康でやりたいことができる体の基盤づくりが必要で、温泉と運動は非常に有効な資源となる」と、伊東市との共同研究に意欲的です。伊東マリンタウンを舞台に、住民はもちろん観光客も楽しみながら健康増進できるプロジェクトが始まります。

懇話会活動

● 北歐サイエンスパークを視察

懇話会では昨年5月に創立10周年事業として北歐メディコンバレーと技能五輪ヘルシンキ大会を視察しました。

メディコンバレーはデンマークのコペンハーゲン地域とスウェーデンの南端スコネ地域にまたがる医療・バイオインダストリーの一大研究・インキュベーションエリアです。四国の約1.5倍の面積に国際空港、12の大学、バイオテクノロジー、医療、IT関連企業約300社が集積しています。今回はエリア内5つのサイエンスパークのうち、サイオンDSU、シビオンサイエンスパークを見学しました。この2つは研究開発の成果をビジネスに結びつけるインキュベーション機能が充実しており、ファルマバレープロジェクトを進めるにあたり大変参考になる事例となりました。



■シビオンサイエンスパーク

● 技能五輪跡地についての提言書を提出

技能五輪国際大会開催のため、沼津市は関係者、有識者からなる「技能五輪国際大会沼津市推進協議会」を設立しました。懇話会は沼津市の要請をうけ、「大会周知・ものづくり啓発部会」「地域の魅力発信部会」「にぎわいづくり・もてなし部会」にシンクタンクTESS研究員を中心に会員を派遣しています。

また、技能五輪開催地となる門池周辺の跡地を有効活用するための提言書「ぬまづウェルネス「リサーチパーク構想」を作成、石川嘉延県知事、斎藤衛沼津市長に提出しました。

提言書では、東部に集積する製造業や研究開発型企業のポテンシャルを生かし、ファルマバレープロジェクトと連携した新たな産業拠点の創設を提案しています。

大学インキュベーションセンターと連携する 研究開発拠点の集積を形成



沼津工業技術センター内に東工大、早稲田大、東農大、県大などのファルマバレープロジェクトに参画する大学のインキュベーションセンター（産業育成機能）を設置、これを核に沼津工業技術センター、沼津インキュベーションセンター、沼津高専が連携した研究開発拠点の集積を形成する。

この提言書はリサーチパークの形成にとどまらず、その先にある経営支援や資金調達、販路拡大などベンチャー育成に関わる総合的な支援にまで言及し、事業モデルを提示しています。懇話会では、技能五輪支援を行うとともにリサーチパーク構想も積極的に推し進める予定です。

ことし3月に日銀静岡支店が発表した県内金融経済動向によると、観光レクリエーション客数や宿泊者数が穏やかながら増加基調にあることがわかりました。同支店は理由として、景気回復に伴う個人所得の改善と民間や自治体による観光振興効果を挙げ、「遠州灘トラフグ」(西遠地域)、「大河ドラマ活用の観光振興」(掛川市)と並んで「かかりつけ湯」(伊豆地域)などの地域ブランド効果が出たと指摘しています。

■伊豆ブランド創生事業

長引く不況にあえぐ伊豆。観光客の旅行ニーズやスタイルの変化への対応に遅れをとった伊豆観光の振興を目的に、平成12年に伊豆新世紀創造祭が行われました。地域の埋もれた資源を掘り起こす一方で、住民主体の地域おこしも活発化しました。修善寺「桂座」、へだSAKANAまつり、中伊豆「大楽校」などは創造祭から新たに生まれた地域の魅力です。

創造祭から5年、地域に育ったイベントや人材、サービスにさらに磨きをかけ、観光誘客の促進と新規マーケットの開拓を図る目的で県は「伊豆ブランド創生事業」を17年度から3年の計画で行っています。

事業の柱は2本。新聞やチラシ、ホームページなどの媒体を利用した一貫性のあるマーケティングPRと、イベントや観光商品づくりの補助です。補助事業には伊豆地域の行政、観光協会、民間NPO団体から49事業がエントリー、32事業が採択されました。

この事業を通じて伊豆ブランドの基盤形成とコンテンツ整備を図り、次のステップとして伊豆ファンの組織化(伊豆倶楽部)を目指していきます。

※伊豆倶楽部・・・ダイレクトな情報発信を継続し、顧客を囲い込むことで安定したリピート需要の喚起を狙う。

●伊豆メッカシンボリックイベント

テーマ **温泉** 堂ヶ島温泉誘致協議会

西伊豆・堂ヶ島温泉丸ごと体感ツアー

観光特使をナビゲーターに、1泊2日の無料体感ツアーを実施した。

テーマ **健康** 伊豆市

伊豆市まるごと「TO-JI」博覧会

温泉療法、癒しをテーマにしたイベントツアーや、各種体験イベントなどを1ヶ月間集中して開催した。

テーマ **花** みなみの桜と菜の花まつり実行委員会

みなみの伊豆の花時間

プロカメラマンによる撮影指導付きの花巡りツアーなどを実施した。

テーマ **歴史と文化** 熱海・伊東温泉芸妓文化促進実行委員会

外国人をターゲットとした観光地づくり

英国大使館、米軍基地での芸者踊りや芸妓遊戯の実演披露、大使館関係者のモニターツアーを実施した。

ウエルネスの**メッカ**づくり
伊豆市まるごと**TO-JI**博覧会

2005年 10月1日～30日開催

ブランド創生事業のひとつ「伊豆メッカづくり推進事業」に採択された伊豆市の「まるごとTO-JI博覧会」。温泉療養からストレスケア、心身のリフレッシュまで、「温泉健康サービス先進地」をめざす伊豆市がさまざまなメニューを用意し、21世紀型の新しい湯治の形を観光客、地元住民にアピールした。旧4町の観光協会と強力なパイプを持つ旅行代理店と、市内の施設が提携する県内外の健康保険組合を通じた誘客を行った。

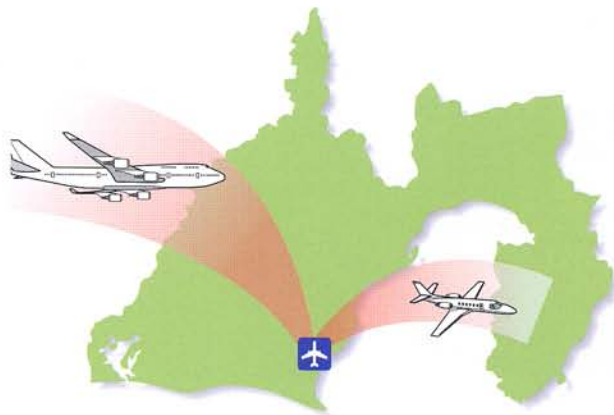


■伊豆ブランド創生シンボリックイベント

懇話会活動

3年後に開港する静岡空港。東部からは距離があるため活用法がなかなか見えにくい部分もありますが、空路という新たなルートが拓けることで、人はもちろん物流の拠点となることが期待されています。

懇話会伊豆地区分科会では空港の活用策として「伊豆通勤圏空港」を取り上げました。静岡空港と直結し、海外から訪れる客をダイレクトに運ぶことで、世界に通用するリゾート「伊豆」を知ってもらおうというものです。パネルディスカッションでは、静岡県の谷和実空港部長、伊豆の国市の望月良和市長、南伊豆町観光協会の村田俊英会長、JTBパブリッシングの大口裕美編集長にご登壇いただき、伊豆通勤圏空港開港に向けた問題点や課題を探りました。コーディネーターは静岡文化芸術大学大学院の坂本光司教授にお願いしました。



■静岡空港と伊豆をダイレクトに結ぶ
通勤圏空港の設置が期待されている



■南伊豆町観光協会
村田俊英会長



■静岡県
谷和実空港部長



■伊豆の国市
望月良和市長



■JTBパブリッシング
大口裕美
宿泊情報編集部編集長



■静岡文化芸術大学大学院
坂本光司教授

壇上では、村田会長が南伊豆地区のアクセス事情の悪さを説明、「地元産業界は通勤圏空港の必要性を感じている」と地元の声を紹介しました。大口編集長は国内・海外旅行が順調に増えているにもかかわらず、伊豆地域は横ばい状態という現実を指摘、豊富な資源を生かした伊豆のブランド化を提案。また、谷部長はハブ空港から目的地をダイレクトに結ぶ方法に航空事情が変化したことを挙げ、海外の富裕層をターゲットにしたチャーター便の可能性を示唆しました。その上で望月市長は「通勤圏空港建設には地元の理解が欠かせない。産官の連携で実現した伊豆ナンバーと同様に、まずは伊豆全体の合意が必要」と地元を代表して発言しました。最

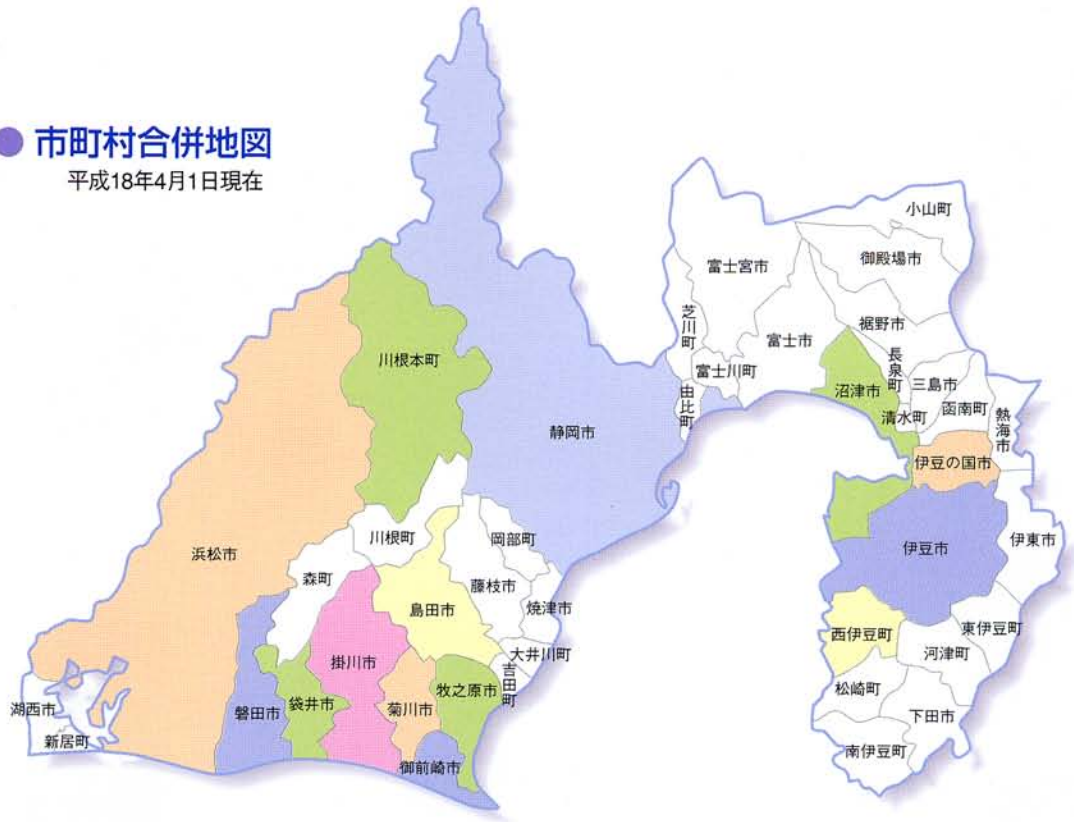
後に坂本教授が「念ずれば花」という言葉を引き合いに、「夢のあるテーマなのでぜひ伊豆全体で取り組んでほしい」と結びました。

今後も懇話会では通勤圏空港の伊豆地区設置に向け、議論を深める予定です。

平成18年4月1日現在で県内の市町数は42、23市19町になりました。昨年7月には12市町村が合併し新・浜松市が誕生、一足先に政令市になった静岡市はことし3月に蒲原町と県内では唯一の飛び地合併を果たしました。依然合併に消極的な東部地域では、沼津・三島市、長泉・清水町の2市2町合併を目指し、清水町住民発議での法定合併協議会設立を目指しましたが、三島市議会で否決となりました。

● 市町村合併地図

平成18年4月1日現在



■ 静岡県市町村合併推進構想

昨年3月末で失効した合併特例法に変わり、4月から施行された合併新法（市町村合併の特例等に関する法律）は、合併特例債などの財政支援措置がなくなり、県の市町村合併推進の役割が強化されました。

これを受け、県は学識経験者等を委員とする「静岡県市町村合併推進審議会」（以下「審議会」）を設置、静岡県における自主的な市町村の合併の推進に関する構想に定めるべき事項について、8月から調査審議を開始しました。

ことし2月には審議会が県に答申を提出、これをもとに県では「静岡県市町村合併推進構想」を策定しました。また、構想にあわせて新静岡県市町村合併支援プランも策定しました。

- 構想では合併を検討する地区を決めるにあたり、
- ①人口15,000人未満の町を含む地区
 - ②生活圏が一体化している地区
 - ③中核市を目指した合併を検討する必要がある地区
- の3項目を基準とし、次頁の地図にある合併推進地域を定めました。



合併を推進する市町の組み合わせ

- (1) 「人口1万5千未満の町を含む地区」における組み合わせ（下線は人口1万5千未満の町）
 - ア 南伊豆地区（下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町）
 - イ 富士宮・芝川地区（富士宮市、芝川町）
 - ウ 静庵地区（静岡市、由比町）
 - エ 島田・川根地区（島田市、川根町）
- (2) 「生活圏が一体化している地区」における組み合わせ
 - ア 富士・富士川地区（富士市、富士川町）

また、次の7つの地区については、審議会が引き続き市町の合併意向調査を実施して合併の必要性や組み合わせについて審議を行い、結論を得た時点で答申を行うことにしています。

- (1) 「生活圏が一体化している地域」
 - ア 志太地区（焼津市、藤枝市、岡部町、大井川町）、静岡市
 - イ 中遠地区（磐田市、袋井市、森町）
 - ウ 西部地区（浜松市、湖西市、新居町、磐田市）
 - エ 熱海・伊東・田方地区（熱海市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市）
 - オ 北駿地区（御殿場市、小山町）
 - カ 榛南地区（牧之原市、吉田町）
- (2) 「中核市を目指した合併を検討する必要がある地区」
 - 東部地区（沼津市、三島市、裾野市、函南町、清水町、長泉町）



● 社会の変化に対応できる柔軟な地域ビジョンを

静岡県市町村合併推進審議会
大坪 檀会長（静岡産業大学学長・懇話会アドバイザー）

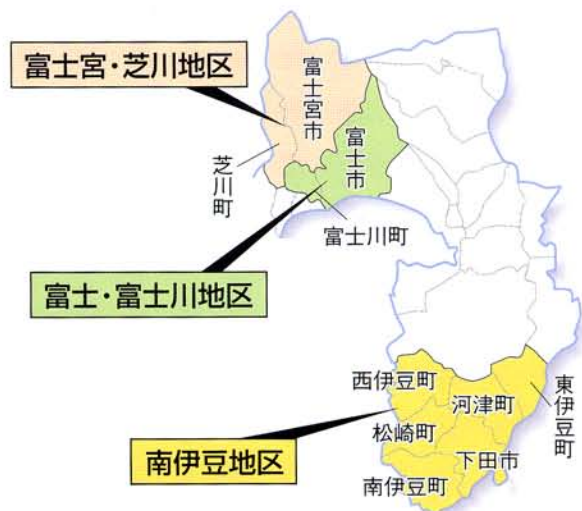
審議会では、さまざまな人に会い、現場の声を聞き、調査をし、データを見て答申を行いました。理想論と現実の両方をにらみながら、住民の立場を最も重視しました。住民の視点で見ると、必要なのは今の行政枠ではなく生活の範囲です。買い物だって現実には苦もなく山を越えている。こうした広い範囲の行政枠になり、多様性・専門性が高まって市民の福祉が向上することが重要です。

答申を受け、県は的確な情報提供や助言、人的支援、財政的支援など合併推進のさまざまな支援策を用意しています。加えて審議会では「合併を検討している住民同士が互いの地域について意外と知らない」ことを指摘、住民の相互交流への支援として、アドバイザーの派遣や経費の助成などを盛り込みました。

次の日本の25年は今までと全く違う、高齢化、人口減少の先に新しい社会ができるはずですが、その時にどうすれば皆がもっと豊かでいい生活ができるのか。これまでの行政の枠組みでいいのか、あるいは、住民サービスをより安くより効率的にやるにはどうしたらいいのか。人の活動範囲はどんどん広がり、時代によって地域のあり方は変わります。今後の民主主義の仕組みを考えるのが合併です。それには10年、20年を見据えたグランドデザインが必要で、首長、議員の方々にはぜひ額に汗してがんばっていただきたいと思います。

■東部の合併状況

県の合併推進構想で「合併を推進する市町の組み合わせ」には、南伊豆地区（下田市、東伊豆・河津・南伊豆・松崎・西伊豆町）、富士宮・芝川地区（富士宮市、芝川町）、富士・富士川地区（富士市、富士川町）が挙げられました。



●南伊豆地区（下田市、東伊豆・河津・南伊豆・松崎・西伊豆町）

県の合併推進研究会の財政シミュレーションによると、南伊豆地区ではほとんどの市町で財政運営の見通しが厳しい状態です。病院、福祉、消防、道路などの行政サービスや主要産業である観光振興については、広域的な観点から一元的に行う必要があるとされています。

生活圏で見ると、第一段階では「東伊豆町と河津町」「下田市と南伊豆町」「松崎町と西伊豆町」のグループに分かれ、次に1市5町全体の一体性が強くなっています。

■5年、10年後の収支（歳入-歳出）予測の一例
県市町村合併推進研究会の財政シミュレーション（経済成長率2%の場合）

	平成22年度	平成27年度
下田市	▼9億7千万円	▼6億4千万円
東伊豆町	▼4億9千万円	▼4億4千万円
河津町	0	4千万円
南伊豆町	▼5億2千万円	▼4億
松崎町	▼4億9千万円	▼4億1千万円

（西伊豆町は調査対象外）

●富士宮・芝川地区

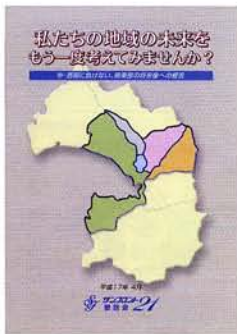
財政シミュレーションでは芝川町の財政運営の見通しが厳しい状況です。生活圏は「富士宮市と芝川町」の一体性がもっとも強く、次に「富士市と富士川町」を加えた2市2町が強い状況になっています。この2市2町が合併すると人口が38万人を超え中核市を目指すことができますが、合併新法の期限を考えるとより一体性の強い富士宮・芝川の組み合わせがまずは現実的なようです。

●富士・富士川地区

財政シミュレーションでは富士川町の財政運営の見通しが厳しい状況です。富士宮・芝川地区と同じく、「富士市と富士川町」の一体性がもっとも強く、ついで「富士宮市と芝川町」を加えた2市2町の結びつきが強いという結果が出ています。

富士川町が3月に行った住民アンケートでは富士市との合併に賛成するが86.32%に達し、反対（12.82%）、無効（0.86%）を大きく上回りました。

「生活圏が一体化している地域」—熱海・伊東・田方地区（熱海市、伊東市、伊豆市、伊豆の国市）、北駿地区（御殿場市、小山町）と、「中核市を目指した合併を検討する必要がある地区」—東部地区（沼津市、三島市、裾野市、函南町、清水町、長泉町）については、審議会がさらに検討を重ね8月ごろに2次答申を打ち出す予定です。



懇話会が合併パンフレットを作成

懇話会は設立当初より、東部に中西部と同等の力のある都市が必要との観点からさまざまな広域連携の方策を探りました。17年度は東部の中核市形成をにらみ、沼津・三島市、函南・清水・長泉町の2市3町をモデルケースに合併パンフレットを作りました。また、新聞「風は東から」では2回にわたり、合併新法の解説や地域の若手リーダーによる対談を行いました。

■合併パンフレット表紙

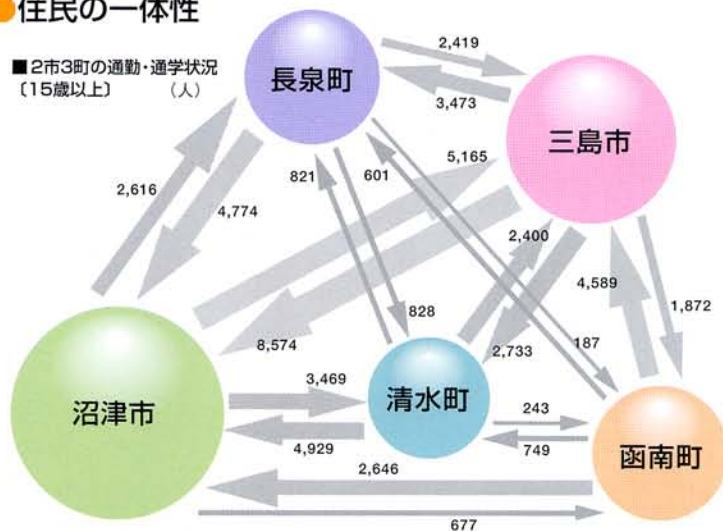
●2市3町の人口面積表

	人口(人)	面積(km ²)
三島市	111,707	62.13
沼津市	207,927	152.18
清水町	31,276	8.84
函南町	38,839	65.13
2市2町計	389,749	288.28
長泉町	37,626	26.51
2市3町計	427,375	314.79

平成16年度「市町村の指標」より

●住民の一体性

■2市3町の通勤・通学状況
(15歳以上) (人)



資料：2000年国勢調査

パンフレットでは2市3町の住民の一体性、人口の動き、各市町の財政力、経済状況などを挙げ、合併によって特別職、議員などの経費削減効果が年間約18.4億円となることを試算しました。また、東部中核市実現に向けた自治体の体力強化の必要性や、合併新法施行が支援策を活用できるラストチャンスであることを訴えました。

合併協議のもつれからごみ・し尿の処理を沼津市に打ち切られた清水町。3年間の期限付きながらごみ処理を函南町に、し尿処理を三島市に委託することができました。こうした中、沼津市との単独合併を是としない清水町は沼津市、三島市、長泉町を含めた2市2町の法定合併協議会設立のための住民発議を行いました。三島市議会が否決、合併は白紙に戻りました。

今回、県の合併推進構想にこの地域が盛り込まれたことで、2次答申が出る8月以降新たな動きが出てくることが予想されます。

● サンフロントから情報発信

ラジオEAST 「You ゆ〜サタデー」

www.digisbs.com/east/radioTop.htm

SBSラジオ

毎週土曜日

11:00 ~ 12:55

土曜ワイド「ラジオEAST」として平成8年に産声を上げた番組も10年の節目を迎えました。今年度は松崎町の「花の三聖苑」や河津バガテル公園、東伊豆町の「雛のつるし飾り祭り」など15カ所で公開放送を行いました。昨年に引き続き懇話会会員に登場していただく「WIND FROM EAST」や、花半島伊豆の四季を紹介する「EAST花ごよみ」、開設以来続いている「EAST温泉へ行こう」など、東部の魅力満載でお届けしました。今年度は新たな試みとして下田街道の今昔をナレーションとリポートで掘り下げました。「いずのくに街道再発見」をテーマに、北条政子、板垣勘四郎、江川英龍・ハリス、川端康成・井上靖の4回にわたり放送し、高い関心を集めました。

これからも地域の情報を発掘、発信しながら新しいことにチャレンジしていきます。



新聞特集記事「風は東から」

www.sunfront21.org/

平成17年4月～平成18年3月

静岡新聞東部版・朝刊
毎月 第4日 曜日 掲載

毎月1回、東部地域活性化の取り組みを特集する「風は東から」。8年目のことしは「観光」「ファルマバレー構想」を2大テーマに、東部版9回、全県版3回でお送りしました。

「観光」では、伊豆新世紀創造祭で発掘した地域の魅力を具体的な誘客に結びつける県の「伊豆ブランド創生事業」を取り上げ、エントリー団体の活動を紹介しました。また、懇話会の伊豆地区分科会での「伊豆にコミューター空港の可能性を探る」をテーマにしたパネルディスカッションを取り上げました。

「ファルマバレー構想」では、いよいよ始動したかかりつけ湯や、11月に開設した県立がんセンター研究所の意義と役割などを紹介しました。また、4月に施行された合併新法を解説、東部2市3町の合併劇を中心に、東部に力のある中核都市の必要性を訴えました。



サンフロント21懇話会ホームページ

懇話会設立10周年を記念し、立ち上げました。懇話会活動がひと目で分かるホームページとして好評です。新着情報をはじめ、毎年の活動記録「飛躍」や過去の提言集、毎月1回静岡新聞に掲載される「風は東から」のバックナンバーが閲覧できます。

● 平成18年度活動方針

① 第39回技能五輪国際大会への支援強化



平成19年11月、沼津市の門池地区で予定されている技能五輪国際大会（国際アビリンピック＝国際障害者技能競技大会と同時実施）を開催まで引き続き支援していく。懇話会は、17年5月にフィンランド・ヘルシンキの第38回技能五輪国際大会を視察し、周辺のデンマークとスウェーデンのサイエンスパークを見学した。大会についての理解と認識を深めると同時に、競技会場の跡地利用についても問題意識を高めることができ、これらの成果をシンポジウムの開催、県と沼津市への跡地利用の提言につなげたが、さらに研究を重ねていく。



② ファルマバレープロジェクトの推進支援

静岡県が進めているファルマバレープロジェクトは、創薬探索の推進、治験ネットワークの構築が進み、医看工連携の拠点となるがんセンター研究所も昨年秋、完成した。また、「かかりつけ湯」や科学的手法によるトレーニングシステムの普及などウェルネス分野での具体策も見え始めた。懇話会は、“食と健康”“食と環境”分野もファルマバレープロジェクトの一環として捉えており、富士宮地域のフードバレー事業についても、これらの施策を全面的に支援していきたい。



③ 伊豆地域の観光の振興

景気によろやく明るさが差し込み、観光産業が主力の「伊豆」のにぎわい復興に期待がかかっている。一方で、国内外の有力観光地、テーマパークなどの遊戯施設との競争激化も予測され、新たな観光戦略を打ち出す必要性に迫られている。懇話会は、有料道路の無料化など新たな観光戦略を模索するとともに、静岡空港開港をにらんだコミューター空港の実現の可能性について、さらに議論を深めていきたい。コミューター空港については、県当局も設置に前向きな姿勢を示し、地元も誘致活動に入っていることから積極的に支援していく。また、各地域で模索する観光ニーズを先取りした戦略をバックアップし、実現を推進していきたい。



④ 広域行政の推進を支援

東部地域では昨年4月、伊豆長岡、韭山、大仁の3町が対等合併して「伊豆の国市」が発足し、沼津市と田方郡戸田村が合併した。さらに賀茂郡西伊豆町と賀茂村も「西伊豆町」として新しい歴史の扉を開いた。一方で、市町の思惑の違いから、合併に向けた足並みがなかなか揃わないという現実も突きつけられた。しかし、財政シミュレーションを待つまでもなく、現状のままでは破綻するという認識は一致しており、知事に勧告権を持たせた新法による合併推進構想を踏まえ、下田市と賀茂郡下の東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町の1市5町、富士市、富士宮市、富士郡芝川町、庵原郡富士川町の2市2町でも組み合わせは異なるものの、合併機運が醸成されつつある。懇話会としては、合併第2弾の幕開けとともに、これらの合併の推進を支援するとともに、高次都市機能を持つ拠点都市の必要性を強調していきたい。

● 会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
相原 郁子	(有)新井旅館	代表取締役	臼井 進	芝川町	町長
青木喜代司	青木興業(株)	代表取締役	臼井 良太	白幸産業(株)	代表取締役
赤塚 敏治	(株)西武百貨店沼津店	店長	内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
赤堀 明夫	サンライフ(有)	取締役	内田 隆久	伊豆洋らんパーク	代表取締役
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長	内田 文喬	内田法律事務所	弁護士
秋鹿 博	(有)アート・ビューロー	代表取締役社長	内村 紳	東海自動車(株)	取締役社長
綾部 恵市	(株)綾市商店	代表取締役社長	内山 一美	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役	宇野 統彦	(株)桃中軒	社長
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長	遠藤 里美	日本ガス興業(株)	代表取締役会長
五十嵐公夫	(株)五十嵐水産	代表取締役	遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
井口 修一	(株)フジスポーツ	代表取締役社長	遠藤 徳良	静岡県東部農林事務所	所長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長	遠藤日出夫	長泉町	町長
池田 誠	池田病院	院長	大井 一郎	(株)キンヤ	代表取締役
池田 泰秀	静岡新聞社・静岡放送	取締役ラジオ局長	大石 滋	静岡新聞社	代表取締役専務
池谷 之利	アイバックスイケタニ(株)	代表取締役社長	大垣 格之	静岡県賀茂農林事務所	所長
池谷 喜幸	(株)池谷商会	代表取締役	大倉 和也	東京電力(株)沼津支店	支店長
伊澤 仁	(株)ジャパンビバレッジ沼津営業所	所長	大古田和彦	山本被服(株)	取締役社長
石井 大介	(株)富陽軒	代表取締役	大塩 孝雄	黄瀬川自動車学校	取締役会長
石井 直樹	下田市	市長	大城 伸彦	伊豆市	市長
石井 誠	(株)石井組	専務取締役	太田 建治	(有)コム企業	代表取締役社長
石川 三義	社会福祉法人 春風会	理事長	太田 長八	東伊豆町	町長
石川 秀樹	静岡新聞社	編集局長	太田 貴久	(株)ブレーン	代表取締役
石野 寿雄	静岡新聞社・静岡放送	東部総局部長	大野 英市	熱海商工会議所	会頭
石山 隆治	静岡放送	常務取締役	大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
磯部 明	磯部建設(株)	代表取締役	大橋 俊二	裾野市	市長
市川 厚	石川建材工業(株)	代表取締役社長	大村 俊之	三島信用金庫	理事長
市川 隆博	スルガカード(株)	代表取締役専務	大村 恵紀	大村歯科医院	院長
伊藤 教二	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長	岡上 光造	富士ロビン(株)	代表取締役社長
稲垣 潤	(株)JTB中部 沼津支店	支店長	小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
稲葉早智子	アロマポット	代表取締役	岡田秀一郎	(財)静岡総合研究機構	専務理事
乾 精治	スルガ銀行(株)	専務取締役	尾形 充生	(株)静岡中央銀行	会長
井上 謙吾	(財)しずおか産業創造機構ファルマバレーセンター	所長	岡野 光喜	スルガ銀行(株)	社長
井上 光一	静岡県中小企業団体中央会	会長	刑部 治	(有)啓伸社 刑部新聞店	代表取締役
井上 太	(株)北里サプライ	代表取締役社長	長田 開蔵	御殿場市	市長
上岡 猛	(株)エス・ティ・ティ・ドコモ東海	取締役静岡支店長	長田 央	小山町	町長
植草慎一郎	(株)康報社 植草新聞店	代表取締役社長	小澤 弘侑	沼津市立病院	病院長
植松 勝一	植松勝一税理士事務所	税理士	小沢 弘昌	NPO文化財調査保存ネットワーク	理事長
植松 眞	(株)トーヨーアサノ	代表取締役	小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
植松三哉子	(株)植松	代表取締役社長	鹿川 紘一	大東紡エステート(株)	取締役社長

氏名	会社名	役職
垣東 秀夫	沼津情報専門学校	校長
片山 劼	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長
勝亦 一強	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
勝又 高雄	日本電気(株)沼津支店	支店長
勝又 敏雄	(株)カジマヤ	代表取締役社長
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	代表取締役社長
勝間田久嗣	二葉建設(株)	代表取締役社長
勝又 英男	(株)勝又新聞店	代表取締役
勝又 泰治	(株)沼広	代表取締役
勝間田芳麿	(学)東駿学園 御殿場西高等学校	理事長
桂 英治	静岡放送	報道制作局長
加藤 孝彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 博彦	(株)メディアクリエイト	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	学校法人 加藤学園	副理事長
金指 光義	(株)稲取観光ホテル	代表取締役
鎌野 千郷	静岡県下田財務事務所	所長
川井 国光	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長
川口 市雄	熱海市	市長
河口陽二郎	(株)増進会出版社	相談役
川崎 幸雄	沼津魚仲買商協同組合	理事長
河津 市元	河津建設(株)	代表取締役社長
川村 博一	(有)川村マンション	社長
河原崎信幸	シンコーラミ工業(株)	代表取締役
菊間 一光	熱海市観光協会	会長
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社・静岡放送	取締役社長室長
木村美都子	木村美都子税理士事務所	税理士
木村 嘉富	国土交通省中部地方整備局沼津河川国道事務所	所長
国重 裕三	日本興亜損害保険(株)静岡支店沼津支社	支社長
久保田正海	クボタコンサルタント事務所	代表
黒崎 昇	三栄レギュレーター(株)	社長
小池 政臣	三島市	市長
小泉 早人	静岡ガス(株)沼津支店	支店長
後藤 恵吾	静岡県東部健康福祉センター	所長
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役社長
小林 克也	小林電気工業(株)	代表取締役
小林 省吾	(株)小林製作所	代表取締役会長
小林 俊夫	(株)東報	代表取締役

氏名	会社名	役職
小林 政則	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役社長
小見山 岳	米久(株)	取締役相談役
小室 直義	富士宮市	市長
近藤 隆明	富士通(株)静岡東部支店	支店長
近藤 安徹	近藤鋼材(株)	代表取締役会長
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
齊藤 公紀	(株)日本製紙グループ本社	特別顧問
齊藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齋藤 利一	三幸興業(株)	代表取締役社長
齋藤 衛	沼津市	市長
齋藤 稔	(株)齊藤組	代表取締役社長
齊藤 洋	沼津三菱自動車販売(株)	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
櫻井 泰次	河津町	町長
佐々木道武	大成サービス(株)浜松営業所	浜松営業所長
定居 康夫	(株)喜久多	代表取締役
薩川 和己	静岡県熱海土木事務所	所長
佐藤三武朗	日本大学国際関係学部	学部長
佐藤 秀樹	(株)リネックスサトウ	代表取締役
佐藤 護	静岡県富士農林事務所	所長
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 経理部長
佐藤 安男	近畿日本ツーリスト 沼津支店	支店長
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
佐野 学	駿河信用金庫	理事長
篠澤 光明	(株)関電工静岡支店	支店長
篠原 光秋	静岡新聞社・静岡放送	東部総局長
清水 守	(株)富士急百貨店	代表取締役
庄司 睦	南駿農業協同組合	代表理事組合長
杉田 至弘	静岡新聞社・静岡放送	常務取締役
杉山 定久	南富士産業(株)	代表取締役社長
須沢 隆弘	(株)東広	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 一紘	静岡新聞社・静岡放送	取締役浜松総局長
鈴木史鶴哉	南伊豆町	町長
鈴木 孝明	(株)エフエムみしま・かなみ	常務取締役
鈴木 尚	富士市	市長
鈴木 宏明	(株)鈴木新聞店	社長
鈴木 義勝	静岡県富士土木事務所	所長
須田 徳男	三島商工会議所	会頭

● 会員名簿

氏名	会社名	役職	氏名	会社名	役職
諏訪部恭一	沼津信用金庫	理事長	中村 博治	ホテル・オペレーション沼津㈱ 沼津東急ホテル	総支配人
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長	名倉 義明	近物レックス(株)	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	代表取締役社長	南里 一博	日本生命保険相互会社沼津支社	支社長
清 恭治	富士錦酒造(株)	代表取締役	西岡 直樹	大和ハウス工業(株)沼津支店	支店長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長	西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長
関塚 正和	静岡県沼津工業技術センター	所長	西島 洋司	医療法人社団親和会 西島病院	理事長
関本 文彦	東海金属工業(株)	代表取締役社長	西村 嘉夫	小泉アフリカ・ライオン・サファリ(株)	常務取締役園長
関谷 盛次	宇久須温泉ホテルニュー岡部	取締役支配人	西山幸三郎	東海大学開発工学部	学部長
芹澤 伸行	函南町	町長	二宮 睦治	青木建設(株)	代表取締役
曾布川 正	静岡県富士工業技術センター	所長	野尻 和義	西日本電信電話(株)沼津支店	支店長
高木 一三	高木産業(株)	代表取締役会長	野津 直己	シュアジャパン(株)	代表取締役社長
高木 信	(株)テクノスジャパン	代表取締役	野田 一	東海食糧(株)	代表取締役社長
高田 菊平	ニューデルタ工業(株)	代表取締役社長	野村 玲三	(株)野村商店	代表取締役社長
高田 誠	(株)加藤工務店	代表取締役	野本 方子	(株)コーリキ	社長
高橋 知仁	東部地域支援局	局長	則竹 幹隆	(株)SBSプロモーション	代表取締役社長
滝口 一彦	大ニ製紙(株)	代表取締役	萩原 孝子	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
田口 誠	(株)エムオーエトラベルサービス	代表取締役社長	萩原 聰治	下田商工会議所	会頭
竹下 博実	静岡県田子の浦港管理事務所	所長	長谷川 清	長谷川木材工業(株)	代表取締役
竹下 雅和	鹿島建設(株)静岡営業所	所長	長谷川浩之	(株)エッチ・ケー・エス	代表取締役社長
竹之熊勇雄	独立行政法人都市再生機構 静岡東部特定再開発事務所	所長	服部巖一郎	(株)チキリ	代表取締役社長
田代 武満	御殿場農業協同組合	代表理事組合長	羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役社長
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役	浜崎 貢	(株)ブケ東海	代表取締役社長
立岩 博明	立岩石材興業(株)	代表取締役	林 光珠	(株)甲子園	代表取締役
谷口 豊	伊豆信用金庫	理事長	林倉 明彦	アメリカンファミリー生命保険会社東海営業本部沼津支社	支社長
千葉 慎二	(株)鈴木工務店	代表取締役社長	早船 進	立花管理(株)	代表取締役
佃 弘巳	伊東市	市長	原口 護	富士商事(株)	代表取締役
辻 明久	(有)メイク・エンタープライズ	代表取締役	原田 誠治	静岡新聞社	常務取締役
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役	一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
土屋 正	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長	兵藤 真一	MOAインターナショナル	広報担当
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役	平井弥一郎	清水町	町長
土屋 昌樹	御殿場高原ビール(株)	代表取締役	深澤 進	松崎町	町長
土屋 幹夫	(株)幹洋堂土屋新聞店	代表取締役	深田 徹	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役	福富 俊志	積水ハウス(株)沼津支店	支店長
土屋龍太郎	大仁町商工会	会長	藤井 安彦	西伊豆町	町長
鳥井 明典	鳥井明典法律事務所	弁護士	藤浪 譲治	SBSメディアサービス(株)	代表取締役社長
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長	伏見 一成	(株)SBS情報システム	代表取締役社長
長嶋 精一	(株)静岡銀行	常務執行役員	藤原 恵一	富士通(株)沼津工場	工場長
中島 麗子	中島水産(株)	代表取締役会長	古川 喜仁	(株)エム・エス・エス	常務取締役
中村 昭和	伊東観光協会	会長	堀内光一郎	富士急行(株)	取締役社長



平成17年度を振り返って

サンフロント21懇話会運営委員長
あさひ総合法律事務所 所長

井口 賢明

昨年から今年にかけ、県内をはじめ国内で少年、少女をめぐる残虐な事件が相次ぎ、マンション、ホテルの耐震偽装問題、ホテルチェーンの法令違反、ライブドアの粉飾決算などコンプライアンス（法令順守）の重要性が叫ばれながら、自覚に欠ける経営者の姿が次々と浮き彫りになりました。多数の死傷者が出たJR西日本の脱線事故、東証システムの不具合、日本航空の相次ぐトラブルなど、わが国に根強くあった「安全安心神話」の崩壊も見せつけられました。海外では、7万人を超える犠牲者が出たパキスタン地震、米の大型ハリケーンの未曾有の被害と自然災害が目立った年でもありました。イラン、イラク、北朝鮮を取り巻く情勢も楽観視はできません。

社会情勢が不安な中、日本経済は、企業の順調な業績回復を背景に株高が続き、薄日が差しってきました。景気の踊り場脱却宣言に続き、日銀は量的緩和を解除しました。金利上昇の懸念はありますものの、今後の景気に対して大変明るい見通しを抱いている経済アナリストも多いようです。

さて、サンフロント21懇話会は発足から12年目の活動に入り、より地域のリーダーシップを発揮する第2段階に入ったといってもいいと考えています。17年度は、7月に「技能五輪国際大会とファルマバレー構想」をテーマに東部地区分科会を沼津市で開催しました。5月に技能五輪ヘルシンキ大会に視察団を派遣し、スウェーデンやデンマークのリサーチパークも見学した成果をシンポジウムに生かすことができ、さらに沼津市長、県知事に技能五輪沼津大会後をにらんだ提言書も提出できました。10月には、伊豆の国市で「伊豆周遊観光の課題」と題しまして、静岡空港開港をにらんだコンピューター空港の可能性を探りました。富士地区分科会は2月に富士市で開催し、「新たな都市へ向けて」をテーマに新交通システム・DMV（デュアル・モード・ビークル）のあり方について学びました。

こうした事業が順調に展開できましたのも、皆様方の多大なご尽力とご協力の賜物と、あらためて感謝申し上げます。

懇話会では、光り輝く東部地域を目指し、本年度も19年11月に沼津市で開かれる第39回技能五輪国際大会の支援、ファルマバレープロジェクトの支援を強化するとともに、伊豆地域の観光振興、広域合併推進を支援してまいります。活動目標の達成には、会員の皆様方のお力が必要になります。従前にも増してご理解を賜り、さらなるご支援、ご協力をお願いできればと存じます。運営委員長としてこの1年、多少の失礼もあったかと存じますが、本年度も引き続き、宜しく願い申し上げます。



 サンフロント21
懇話会

<http://www.sunfront21.org/>

■発行 平成18年5月15日

〒410-8560 沼津市魚町1番地サンフロント5F 静岡新聞社・静岡放送東部総局内事務局 TEL.055-962-6520